

# JX金属商事

## ◆会社概要

JX金属100%出資の直系商社。源流の東邦商事は1948年設立で、日本鋳業(現JX金属)の電気銅などを販売した。のちに日鋳商事に改称し、93年、同じく日本鋳業の子会社で硫酸などの化学製品を販売したカクタス化成と合併。現在の業容となり、11年4月、JX金属商事に改称した。

原料リサイクル、化学



細谷社長

品、金属加工、新素材、表面処理の5事業部門を構える。主力の原料リサイクル部門は現在、収益の約半分を占める。銅や貴金属を含むスクラップを国内外から集荷し、主にJX金属グループの製錬所や伸銅工場へ副原料として供給する。次いで大きい化学品部門は、製錬副産物の硫酸などを扱う。

# 非鉄流通 ファイル

69

金属加工部門は伸銅品を主とし、JX金属と密に連携しながらコイルセンター事業も広く展開。新素材部門では電子材料、レアメタルのほか、近年は特金スクラップの集荷・販売にも力を入れる。表面処理部門の主力はめっき薬液で、会社唯一の製造部門である高槻工場(大阪府)で開発か

ら手掛ける。

16年3月期までの3カ年は単年度売上高1000億円、経常利益15億円の規模で推移した。

## ◆特色

原料リサイクル部門で扱ったスクラップの約7割は、パンパシフィック・カップ(佐賀関製錬所(大分県)、JX金属倉見工場(神奈川県)などのグループ拠点向け。銅系のほか、廃電子基板類などの金銀滓も集めて、グループ

プのリサイクル拠点で減量化し製錬所へ送る。

佐賀関向けヤードの東京リサイクル・テクノセンター(東京都)を含む全国の支店・営業所と、11年12月に完全子会社化したニット・トレイディングで国内集荷を力入り。アジアなどからの輸入調達も一定比率で続ける。

金属加工部門のスリット加工サービスは尼崎支店(兵庫県)とタイの100%出資子会社で自前

## 製錬支える原料リサイクル部門

# 新素材、商材増やし拡販



本社

- 【会社概要】
- ▽社長=細谷一彦
  - ▽本社=東京都中央区築地1-12-6 築地えとビル9F
  - ▽事業所=1支社(大阪)、6支店(尼崎、名古屋、新潟、日立、倉見、九州)、2営業所(高岡、佐賀関)、東京リサイクル・テクノセンター、高槻工場、1駐在員事務所(ベトナム)
  - ▽関連会社=国内1社(ニット・トレイディング)、海外6社(マテリアルズ・サービス・コンプレックス・タイラント、マテリアルズ・サービス・センター・タイラント、深圳日鋳商貿、マテリアルズ・サービス・コンプレックス・マレーシア、台湾日鋳金属、上海日鋳金属)
  - ▽資本金=3億9000万円
  - ▽従業員数=国内252人、海外11人

経常利益の約半分が親会社依属、残り半分がグループ外との取引。JX金属グループの中核商社であると同時に、「商社としてグループ外から利益を持つてくる役割もある。非JXの比率をどう増やすか(細谷社長)と中長期を見据える。

行う。タイのコイルセンター事業は非鉄製品流通のDOHOから14年に継承した。JX金属のコイルセンターの営業支援もある。直近例では、JX金属が15年4月に稼働開始した中国・東莞のコイルセンターについて、JX金属商事70%出資の深圳日鋳商貿が、同8月から販売、

「当社唯一のメーカーポジションの事業。口銭商売ではない(細谷一彦社長)。無電解パラジウムめっき液、電気ロジウムめっき液などの主力品をそろえる。高槻工場には高度な評価・分析体制も備え、めっき液の状態解析、めっき品の不良解析も支援する。」

## ◆今後の展望

本年1月1日付で本社の「企画部」を「企画開発本部」に格上げ・増員し、約2000社の取引先からニーズとシーズを引き合わせる取り組みも始めた。(松尾 聡子)